



## 正月はなぜおめでたいのか？

遅ればせながら、新年あけましておめでとうございます。

昨年はお祭りや古民家の調査などで、市民の皆様には大変お世話になりました。本年も引き続きご指導の程よろしくお願いいたします。

さて、年始によく見聞きする「あけましておめでとうございます」という言葉ですが、よく考えてみるとなんだか不思議な挨拶です。なぜ「年が明ける」と「おめでたい」のでしょうか。

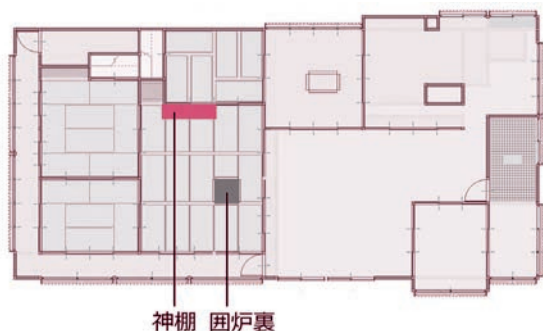
新年＝めでたいという考え方の起源については、いろいろな説がありますが、その内のひとつに「年神への信仰」というものがあります。

年神とは、元日にやってくるイエ（家）や家業の守り神であり、地方によってオトンドサン、お正月様、歳徳様（トシドンは大晦日）など、いろいろな呼び方をされます。お正月のお餅や門松、注連縄、お節料理などは、本来、この年神をまつるために用意されるものでした。

民俗学において、この年神の正体は祖霊（ご先祖様）だと考えられています。つまり、お正月は自分たちの守り神であるご先祖様が、家に帰ってくる時期なので「めでたい」と祝われたのです。

元日に来訪した年神は、その日のうちに帰るのではなく、しばらくは家に滞在すると考えられていました。その間、年神は神棚にまつられます。神棚は多くの場合、居間や座敷などの家族が集まる部屋に設けられました。

下の平面図は、常陸大宮市高部にある古民家のものですが、日常生活の中心だった囲炉裏のある部屋に神棚が掲えられています。【図1】



▲【図1】旧K家住宅の平面図  
(民俗部会での調査をもとに作成)



田中 伸吾  
市史編さん委員会 民俗部会専門調査員  
茨城県立歴史館 史料学芸部学芸課 学芸員

また、地域によっては、作り付けの神棚とは別に、年棚（としだな）という年神専用の神棚を用意する場合もありました。

下の写真は、1965年（昭和40年）1月15日に里美村（現・常陸太田市里美地区）で撮影された、お正月様（年神）をまつる年棚です。【図2】



▲【図2】お正月様の年棚（藤田稔氏撮影）

近年では、正月に年神をまつる家も少なくなりました。皆さんのお宅では、どのようなお正月の行事が行われたのでしょうか。

調査員がお邪魔したときには、お話を聞かせてください。

探しています！

古文書・古写真・古い石塔・昔話・珍しい動植物などは、本市の歴史を調査する重要な手がかりです。お心当たりがありましたら、ぜひご一報ください。

■問い合わせ■

文化スポーツ課

文化・スポーツグループ ☎ 52-1111（内線 344）